

球技「バレーボール」

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 思考力・判断力・表現力
主体的に学ぶ力 他者とかわる力

① 単元について(単元観・生徒観・指導観)

1 単元観

本単元は、学習指導要領「E 球技」の「ネット型」に位置づけられている。「ネット型」とは、コート上でネットを挟んで相対し、身体や用具を操作してボールを空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合う領域である。第1学年のバレーボールでは「ラリーを続けること」を目標にしている。

また、練習やゲームを通して、個人技能や集団技能を高めることができるとともに、体力の向上を図ることができる。自らの責任を果たしたり、互いに助け合ったりするなど、社会生活に必要な態度を養うこともできる。

これらの特性から、生徒一人一人が個人技能の高まりとともに、互いに教え合い、支え合いながら自発的・主体的に学習を進めることや、技能の向上に応じてパスやラリーが続くなどゲームの質的な高まりに楽しさや喜びを感じることができる種目である。

2 生徒観

本学級の生徒は、よく声を出し、活発な雰囲気得意的に学習を進めることができる生徒が多いが、一方で事前アンケートから45%の生徒が運動に対して苦手意識を持っている現状もある。

事前アンケートでは、「体を動かすのは好きですか?」という問いに対して67%の生徒が「とても当てはまる」、「当てはまる」と回答しているが、19%の生徒は「あまり当てはまらない」、「まったく当てはまらない」と回答している。運動が苦手な生徒は「バレーボールの授業へ向けて不安なことがあるか?」という質問に対して「きちんと狙った場所へパスができるか」、「上手くボールを扱えるか」、「サーブがネットを越えるか」といった個人技能の習得に関する不安を持っていることも分かった。また、運動能力は全体的に低く、今年度の新体力テストの結果では、バレーボールに必要な体力要素である反復横とび(敏捷性)や立ち幅跳び(瞬発力)において県平均を下回っている。

また、仲間に大きな声で賞賛や励ましの声をかけることは得意であるが、具体的なアドバイスをすることも課題である。技能ポイントを踏まえたアドバイスや声かけができるよう場面づくりも必要である。

これらのことから、運動が苦手な生徒も意欲的に取り組むことができ、具体的な言葉で互いの努力や成長を認め合える集団づくりにつながる教材づくりが必要であると考えられる。

3 指導観

指導にあたっては、個人技能の習得に対する不安を軽減するために、単元前半でパスやサービスなどの基本技能を習得する時間を設定し、パスを中心に基本的な技能を身に付けさせ、パスがつながる楽しさや喜びを味わわせ、意欲の向上を図りたい。その上でパスの技能を生かし、ゲームに発展させ、チームで協力してラリーを続けることの楽しさを味わわせたい。

後半の試合形式の学習では、生徒の実態に応じて、サーブレシーブの際のボールキャッチや、ワンバウンドしてボールをつなぐことを許可するなどのルールを工夫することによって、ラリーを続ける目標に意欲的に取り組ませる。また、コートを半分に分けて使し、コート内に入る人数を制限することでボールに触れる回数を増やせるようにしたい。

個人技能の習得やチーム練習の中で、提示したポイントと比較して自己の課題を把握したり、チームの課題を見つけて、改善に向けて仲間と協力して意欲的に活動に取り組む場を設定することで、ポイントを踏まえたアドバイスや声かけ、ふり返りをする力を身に付けさせたい。

また、集団で協力して行う種目という特性を活かし、グループごとに課題を持たせ、技能段階に応じた練習方法を工夫させ、お互いの技能を認め合いながらチームとしての作戦を考えていくなど、集団的な技能を身に付けさせながら個人的技能の伸長を図りたい。

② 単元の目標と身に付けさせたい力について

1 単元の目標

- (1) ペアやグループで課題を見つけ、積極的に声をかけ合い学び合いができる。また、自分の役割に責任を持ってやり遂げることができる。
- (2) ペアやグループの課題を見つけ、改善策を考え、自分の言葉で表現することができる。
- (3) 声かけやアドバイスをし合って、パスやサービスなどの基本技能を習得し、ラリーを続けることができる。
- (4) バレーボールの技術の名称や技能ポイント、試合の進め方やルールを理解することができる。

2 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
①運動に積極的に取り組み、ペアに声かけやアドバイスを行うことができる。 ②意欲的にゲームに参加し、仲間と声をかけあって練習することができる。	①ポイントとなる言葉を用いて声かけやふり返りができる。 ②お手本や技術ポイントと比較してペアの課題についてアドバイスをすることができる。 ③めあてに対する考えを根拠を持って説明し、グループで意見を交流することができる。 ④交流した意見から考えを深め、自分のグループに活用して課題を解決することができる。	①自己の課題を意識して、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、アンダーハンドサービスなどの基本技能を向上させることができる。 ②ゲームでラリーを続けるために基本技能を安定して行うことができる。 ③技能ポイントを意識して技能テストで力を発揮することができる。	①パスやサービス、レシーブなど基本技能のポイントを理解することができる。 ②ゲームの進め方を理解し、意欲的にゲームに参加することができる。

3 本単元で育成を目指す資質・能力

(1) 本校の設定した資質・能力と本単元との関わり

資質・能力		特に身に付けさせたい力	本単元での育成・評価
知識・技能	知	①学習したことを自ら語れる力（知の構造化）	○
思考力・判断力・表現力	思	①根拠をもとに、正しい判断をする力（論理的思考力）	○
		②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力（批判的思考力）	○
		③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力（言語力）	○
主体的に学ぶ力	主	①自ら課題を見だし、解決しようとする力	○
他者とのかかわる力	他	①他者と協力して、課題を解決したり、目標に向かって取り組んだりする力	○
		②他者とのかかわりを通して、自分の考えを深めたり広げたりしようとする力	○
社会貢献力	社	①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	—
自己形成力	自	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	—
		②自信を持つ力	—

(2) 本単元で本校の設定した資質・能力を身に付けさせるための手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知-①	めあてに対する成果と課題を発表させる。学習カードにふり返りを記入させる。
思-①	お手本や映像から上手く行うためのポイントを見つけさせる。
思-②	お手本と比較してペアやグループの課題を見つけ、改善策を考えさせる。
思-③	見るポイントを指定し、ポイントを踏まえて説明させる。
主-①	自分で課題を発見し、既習事項を用いて解決方法を見つけさせる。コツのアドバイスをしながら解決方法を実行させる。
他-①	ペア学習やグループ学習を毎時間取り入れ、他者と協力しながら課題を解決していく場の設定をする。
他-②	仲間と意見を交流して自分の考えを深めさせ、ふり返りを発表させる。

③ 単元計画

1 単元の全体像（Ⅰ：学習内容，Ⅱ：学習活動，Ⅲ：単元として生徒に身に付けさせたい力）

Ⅰ	球技「バレーボール」を、
Ⅱ	提示したポイントと比較して自己の課題を把握したり、チームの課題を見つけて、改善に向けて仲間と協力して意欲的に活動に取り組む活動を通して、
Ⅲ	ポイントを踏まえたアドバイスや声かけ、ふり返りをする力を身に付ける。

2 単元の終末で見取るパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準
ペア学習やグループ学習を通して ①仲間のアドバイスを活かしてパスやサービスなどの基本技能を習得することができる。 ②基本技能の習得やラリーを続ける課題に対して、ポイントを踏まえたアドバイスや声かけ、ふり返りができる。	A ①仲間のアドバイスを活かして、ゲームの中でパスやサービスなどの基本技能を安定して行うことができる。 ②自分やチームの課題について、ポイントを踏まえた具体的なアドバイスやふり返りができる。
	B ①仲間のアドバイスを活かして、ペア練習やチーム練習の中で、パスやサービスなどの基本技能を安定して行うことができる。 ②自分やチームの課題について、ホワイトボードにある言葉を使って、アドバイスやふり返りができる。
	C ①仲間のアドバイスを活かして、パスやサービスなどの基本技能をくり返し挑戦することができる。 ②自分やチームの課題を見つけることができる。

3 学習内容と評価の計画

学習過程	時	○ 本時のめあて ● 学習内容	評 価					
			関	思	技	知	評価規準 (評価方法) 【資質・能力】	※評価規準の太字ゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。
課題の設定	1	○ バレーボールの特性や基本技能を知り、バレーボールに慣れよう。 ● ボールを使った体づくり運動 ● バレーボールで身に付ける基本技能の確認	◎					・運動に積極的に取り組み、ペアに声かけやアドバイスをを行うことができる。 (ワークシート・行動観察)
情報の収集	2	○ ペアでポイントの声かけをしながらパス練習をしよう。 ● オーバーハンドパス ● アンダーハンドパス ● グループでラリー		○		◎		・パスのポイントを意識して仲間と協力して意欲的に練習することができる。 ・ポイントとなる言葉を用いて声かけやふり返りができる。【思-①】【知-①】 (ワークシート・行動観察)
	3	○ ペアやグループでポイントの声かけをしながらパス練習をしよう。 ● オーバーハンドパス ● アンダーハンドパス ● アンダーハンドサービス				◎		・ペアやグループで協力して声かけを行い意欲的に練習することができる。 ・ポイントを意識してパスの技能を向上させることができる。【主-①】 (ワークシート・行動観察)
実行	4	○ ペアでポイントの声かけをしながら基本技能を確認しよう。 ● パスゲーム ● アンダーハンドサービス ● レシーブ		◎		○		・お手本や技術ポイントと比較してペアの課題についてアドバイスをすることができる。【思-②】 ・自己の課題を考え、技能を向上させることができる。 (ワークシート・行動観察)
課題の設定	5	○ 練習した技能を使って試合形式でラリーを続けよう。 ● 試合の行い方を知る ● ボール投げ入れのゲーム ● 前回見つけたポイントを活かしながらゲームを行う。	◎			○		・試合の進め方を理解し、意欲的にゲームに参加することができる。また、仲間を声をかけ合って練習ができる。 【知-①】 (ワークシート・行動観察)
情報の収集	6	○ ボールを3球つないで返球するためのポイントを見つけて共有しよう。 ● 色々なポジションを試してみる ● サーブ、キャッチありのゲーム ● 各チームの意見交流で理由をつけて説明する。【本時】		◎		○		・めあてに対する考えを根拠を持って説明し、グループで意見を交流することができる。【思-③】 ・ラリーを続けるために基本技能を安定して行うことができる。 (ワークシート・行動観察)
整理・分析	7	○ 前回のポイントを生かして3球つないで相手コートにボールを返そう。 ● 各チームの意見を参考にしてチームの課題を解決することができる。 ● 色々な意見を取り入れながら、工夫してゲームを行う。		○		◎		・交流した意見から考えを深め、自分のグループに活用して課題を解決することができる。【他-②】 ・ラリーを続けるために基本技能を安定して行うことができる。 (ワークシート・行動観察)

実行・表現	8	○ チームの課題から目標を持ってゲームを楽しもう。 ● ラリーを続けるためのチームの課題から目標を持ってゲームを行う。 ● ポイントを意識しながらゲームを楽しむ	○	◎	・チームの課題から目標を設定し、 目標に向けてチームで協力しながら課題を解決していくことができる。【他-①】 ・仲間と意見を交わしながら学習を進めることができる。【他-②】 (ワークシート・行動観察)
まとめ・振り返り	9	○ ペアやグループで協力して身に付けた技能を發揮しよう。 ● 技能テスト ● バレーの授業のふり返り		◎	・技能ポイントを意識して技能テストに取り組み、力を發揮することができる。 (行動観察)

④ 本時の学習

1 本時の目標

ボールを3球つないで返球するためのポイントを見つけてグループで意見を交流しよう。

2 本時の評価

評価規準 (評価の観点)	評価基準	
イー③ めあてに対する考えを根拠を持って説明し、グループで意見を交流することができる。(ワークシート・行動観察)【思-③】	A	ラリーを続けるためのポイントについて根拠を持って他のチームに説明することができる。
	B	自分のチームの課題から、ラリーを続けるためのポイントを見つけることができる。
	C	自分のチームがラリーを続けるための課題を見つけることができる。

3 準備物

バレーボール, ホワイトボード, デジタルタイマー

4 学習展開 (6限目/9)

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	実行・表現	まとめ・振り返り
	学 習 活 動		指 導 上 の 留 意 点		評価規準 (評価方法)【資質・能力】
導入 (5分)	1. 集合・整列 2. ランニング, 準備運動 3. 号令・挨拶 4. めあての確認				
	【本時のめあて】 ボールを3球つないで返球するためのポイントを見つけてグループで意見を交流しよう。				
展開 (40分)	5. チームでパス練習 (K)…くり返し挑戦する)		前時までに学習した円陣パスでラリーを続けるポイントを確認し, 本時のめあてにつなげる。		
	6. 試合形式でラリーに挑戦 ・試合形式① (1ゲーム4分×2ゲーム)		既習のポイントを確認しながら, 練習を行う。 三段攻撃につながるように, 3球目で相手チームに返すことを意識させる。 3球つなぐ意欲を高めるために, 3球目で返して得点した時はボーナス点を与える。		ウ②ラリーを続けるために基本技能を安定して行うことができる。 (行動観察)

	<p>7. ポイントの意見交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームで意見を出し合う。 (J)…じっくり考える) ・全体でポイントを共有する。 (H)…はっきり表現する) <p>8. 実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合形式② (1 ゲーム 4分×2 ゲーム) (K)…くり返し挑戦する) <p>9. 片づけ</p> <p>チームで協力して行わせる。</p>	<p>全員が意見を出せるよう、一人一つは意見を出すように指示を出す。</p> <p>根拠を持って説明できるように、「○○がポイントだと思います。理由は△△だからです。」という形式で発表をさせる。</p> <p>各チームの意見を参考にしながら、前半のラリーの回数を越せるように挑戦させる。</p> <p>5分以内に片づけさせる。</p>	<p>イ③めあてに対する考えを根拠を持って説明し、グループで意見を交流することができる。【思-③】 (ワークシート・行動観察)</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>10. 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを発表する。 (2～3人) <p>11. 次時の確認</p> <p>12. 号令・挨拶</p>	<p>○本時のめあてに対する振り返りと次時に向けた意見を発表させる。</p>	